つつじ通信
74号
2020.12.21　発行

痔核の治療　vol.3

大腸肛門外科部長　　岡本　欣也

Q6 痔核の治療は？

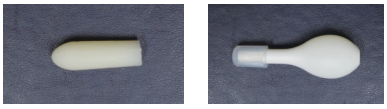
治療が必要になる痔核は症状がでて日常生活に支障をきたすものです。したがって健診で便潜血反応が陽性になり、内視鏡の結果、大腸には異常がなく痔核からの反応が疑われても自分の症状がなければ治療の必要はありません。
痔核の治療は大きく分けて二つ。薬か手術です。

Q7 痔核の薬は？

痔核に対する薬は座薬か軟膏といった外用薬が中心となり、内服薬はあまり効果が期待できません。一つの製薬会社で同じ成分の座薬と軟膏をつくっているものがあり、自分で使用しやすいほうを選んでもらえばいいです（写真２）。

また肛門に悪い生活習慣を治すことも重要です。最も重要なのは排便習慣を良くすること。当然便秘、下痢は良くありません。トイレで長く本を読んでる人、排便したくないのにトイレでいきんでいる人。あと、お酒や香辛料の強い食事、同じ姿勢でずっと座りっぱなしの人、冷えもよくありません。またゴルフはおしりに負担がかかるスポーツです。

写真　2



座薬　　軟膏

Q8 市販薬とどう違うの？

市販薬は一般にすべての疾患に効くようにさまざまな成分で作られており、十分に痔核の症状を改善します。では病院で処方する薬はというと、より症状にあわせて使用できるように特徴をもって作られています。ステロイド含有の薬になると市販薬より量が多く、その中でも高容量のものから低用量のものまであり、入っていないものもあります。また止血効果の強いものなど、効能に特徴があります。私たちは患者さんの症状に応じて処方をしています。

Q9 どんな人に手術するの？時期は？

急性的にできた痔核は薬で治すことができます。一方、慢性的に育った痔核は程度が軽ければ薬と生活習慣の改善で治療しますが、程度がひどくなると手術が必要となります。医師からみた手術の適応は先にお話しした脱出の程度が判断材料になります。一般に図４の三段階目、つまり排便の時に飛び出てきた痔核を指で押し戻さなければならなくなったら手術が必要と思ってください。この段階のものはゴムの伸びたパンツが元に戻らなくなったようなものです。また薬を使っても出血がおさまらず、貧血がすすむ際も手術が必要です。もう一つ、手術に関しては患者さんの意向もあります。痔核は良性の病気で放置しても癌になることはありません。死ぬ病気でないってことです。したがって仕事が忙しく休みがとれない人、子育てで家をあけられない女性などはすぐに手術をする必要はなく、ご自身のタイミングで手術を考えてもらえばよいです。逆に程度が軽くても生活の支障をきたすと思えば、手術を選択することもあります。時々、「夏は治り悪いですか」って聞かれますが、そんなことはありません。決心した時が、やり時です。また女性に「生理の時はやめたほうがいいですかって」聞かれることがあります。生理で手術がやりにくくなることはないし、術後の経過に影響を及ぼすこともありません。ただし、手術後は傷口から出血やリンパ液などがでてガーゼをおしりに挟む必要があります。生理と重なると不快だなって思う人や生理痛がひどい人などは時期をずらしたほうがよいと思います。

図4　痔核の脱出度分類

1度	排便時に肛門管内で痔核は膨隆するが、脱出はしない
2度	排便時に肛門外に脱出するが、排便が終わると自然に還納する
3度	排便時に脱出し、用手的な還納が必要である
4度	常に肛門外に脱出し、還納が不可能である

次号へ続く…